報告者：川野祐司（東洋大学）

論題：デジタル通貨―理論から実践へ―

報告言語：日本語

要旨：デジタル通貨（Central Bank Digital Currency：CBDC）には，銀行間で取引されるホールセール型と個人利用を想定したリテール型がある．ホールセール型はシンガポールなどで比較的早くから実証実験が進められてきたが，リテール型の開発は遅れていた．しかし，ビットコインなどの暗号通貨や民間企業のトークン（電子マネー）の普及が急速に進んでいることを受けて，リテール型のデジタル通貨の開発が進んだ．2020年にバハマでサンドドルが流通を始めるなど，デジタル通貨は実現可能性を議論する段階から，具体的な導入方法や経済に与える影響を議論する段階に移っている．

本報告では，リテール型のデジタル通貨を取り上げ，各国での利用状況や課題を見ていく．DLT（分散型台帳技術）の活用，大量のデータ処理，安全対策，デバイスの選定，銀行の役割などデジタル通貨の導入に向けて克服すべき課題は多い．本報告ではいくつかのポイントに絞って各国の取り組みを見た後に，日本の取り組みを見ていく．最後にデジタル通貨が普及した社会はどのように変わるのか検討する．